

「心が響きあう地域づくり」～こどもの見守り～に関する事例の取組状況について

資料 1

第3回区民会議(平成18年12月22日開催)における提案内容		
取組方法	具体的な取組内容	取組事例
1. 広報の活用	①市政だより、区民会議ニュース、区ホームページ、各団体機関紙、地域メディア、マスメディアなど各種媒体を活用する。 ②各地域における実践事例などを収集・広報して、区全域での情報共有化を図る。 ③事例、問題点、ヒントなどを取り組みやすいように具体的に楽しく、わかりやすく広報する。(文章だけではなくイラストなども使う) ④区民会議ニュースで特集を組むなど集中的、かつ継続的な広報が必要。 ⑤区民の関心を高めるための手段として、ポスター作成、標語募集などがある。 ⑥区民会議の課題を周知するため、懸垂幕を掲げる。 ⑦外国人への広報を工夫する。	①区民会議ニュース臨時特集号の発行 ②地域メディア(タウン誌等)を活用(紙面買取等)した広報 ③懸垂幕の製作
2. 町内会・自治会など既存組織との連携	①各地域では当事者たる保護者が取り組みの主体であることを認識し、そのきっかけや環境作りに配慮する。 ②保護者、子どものニーズや解決のアイデア、自主的行動を大事にする。 ③町内会など地域組織・関係既存組織と保護者との意思疎通を図り、先進的な事例や取り組みのノウハウなどを参考にしつつ、地域の実態・ニーズに合った方法を検討する。 ④行政・学校は、地域の実態・ニーズを把握して支援・協働する。 ⑤元気なシニア世代(団塊の世代など)の活用。	①腕章、ベスト、立て看板等の製作 ②各地域で必要とする経費見積書を徴取したらどうか。 ③区ではその経費を予備費として計上はできないか。

課題解決に向けた取組状況について(平成19年3月現在)
1 平成18年度における取組 (1)区民会議の提案のうち、実現可能なものを「平成18年度協働推進事業費」を使用し実施する。 ①事業名-「心が響きあう地域づくり事業」 ②予算額-2,280,000円 (2)事業内容 ①タウン誌(マイタウン21)を活用した地域の活動事例の紹介記事の掲載(3月1日号、4月1日号) ②懸垂幕の製作 ③区民会議ニュース、チラシ、ポスター作成等に必要な物品の購入 ④課題提案箱の作製 ⑤地域活動用ベスト、腕章の購入
2 今後取組を進めていく事項 (1)区民の関心を高めるための広報の継続 (2)既存組織との連携に向けた仕組みづくり (3)シニア世代の地域社会への参加に係る仕組みづくりの検討 (4)区民ニーズに即した支援のあり方、予算のあり方の検討

「心が響きあう地域づくり」～「こどもの見守り」地域のつながり「あいさつ」がはじまり～ の取りまとめについて

I 「こどもの見守り」に関する実践事例及び課題解決に向けての具体的な手法など ～第2回区民会議での調査・審議から～

「見守り」実践事例など	ヒント・ノウハウなど	テーマへの展開可能性	問題点	傍聴者意見(参考)
1. 東柿生小学校区防犯パトロール隊				
①小学校区地域(町会を越えて)の自発的・自主的ボランティアで構成された「勝手連」。パトロールの時間、コースなどは自由で腕章着用以外義務づけなし。 ②日頃から学校の運動会等に招かれており、児童・保護者に紹介されて顔馴染み。 ③地域住民と子どもとの「あいさつ」のやりとりは大切。	①地域住民のボランティア組織。 ②決まりや義務ではない自由な活動。 ③子どもとのあいさつの交換。 ④学校との日頃の交流。 ⑤子どもの考え・視点(感想・意見)の取り込み。	◎		
2. その他の「見守り」事例				
①岡上・片平等多くの地域でPTA校外委員を中心にパトロール。町内会がパトロール隊を編成して協力。 ②西生田小区一部地域では、「東柿生」の事例同様に住民が自主的にわんわんパトロール、下校時見守り隊を立ち上げ、保護者・校外委員と常時情報交換。町内会は広報、経費などで支援。通学ルート沿いの住民有志は下校時玄関前で見守り。 ③安全・安心まちづくり協議会では、「麻生区子どもの安全の日」を制定。8台のパトロールカー等(警察4台、防犯協会1台、民間団体1台、区役所2台)による見回りなど地域の防犯活動を実施。	①大きな組織でなくても小さくて顔馴染みになれるご近所の「見守り隊」を沢山つくる。 ②小さな波紋が広がり重なるように。 ③街角の掃除など身近な機会に子ども連れで参加して絆づくりを。 ④転入してきた方には、前から住んでいる人が進んで地域の情報を提供する。 ⑤親が通勤時に町内では腕章をつけるなどして、当事者として主体的に行動することができる。 ⑥学校側には余裕は少なく、校外問題に過度の依存は疑問。 ⑦中原区では町内の中学生を「見守り」に巻き込んだ事例がある。	◎	①当事者であるはずの保護者間でも「見守り」に温度差。 ②校外委員への負担。 ③地域への親の依頼心。 ④町内会など地域と保護者間での意思疎通、ニーズ・アイデアの把握。 ⑤学校と地域との連携、役割分担明確化。	①資料アンケートのように、各小学校で「こどもの見守り」に取り組んでいるが、問題はそのきめの細かさ、維持にある。
3. 副題:「地域のつながり「あいさつ」がはじまり」に関して ～顔を合わせたら「あいさつ」を交わすことが防犯だけでなく地域づくりの根底となる～	①家庭では親が率先して「あいさつ」を。親が子どもの見本。 ②学校では教職員から「あいさつ」の率先、垂範を。	◎		①あいさつを防犯の視点だけでなく、親子の話し合いからはじめて、他人を思いやる心、公共心を育てることに広げたい。
	①家庭、町内、学校、集まり、どこでも、「あいさつ」は先ず自分から声をかけて。 ②無視されても繰り返しが必要。	◎	①「あいさつ」をしないのは、子ども・若者ばかりではない。	
	①町内では、腕章・ベストをつけていると声が掛けやすく、また相手も返しやすい。 ②腕章悪用に注意する。防止策として、地域で管理する仕組みをつくる必要がある。	◎		

II 地域における「こどもの見守り」に関する取組について ～フォローアップ体制の整備～

取組方法	具体的な取組内容	テーマへの展開可能性	取組事例	傍聴者意見(参考)
1. 広報の活用	<ul style="list-style-type: none"> ① 市政だより、区民会議ニュース、区ホームページ、各団体機関紙、地域メディア、マスメディアなど各種媒体を活用する。 ② 各地域における実践事例などを収集・広報して、区全域での情報共有化を図る。 ③ 事例、問題点、ヒントなどを取り組みやすいように具体的に楽しく、わかりやすく広報する。(文章だけではなくイラストなども使う) ④ 区民会議ニュースで特集を組むなど集中的、かつ継続的な広報が必要。 ⑤ 区民の関心を高めるための手段として、ポスター作成、標語募集などがある。 ⑥ 区民会議の課題を周知するため、懸垂幕を掲げる。 ⑦ 外国人への広報を工夫する。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ① 区民会議ニュース臨時特集号の発行 ② 地域メディア(タウン誌等)を活用(紙面買取等)した広報 ③ 懸垂幕の製作 	① 各組織間の情報共有
2. 町内会・自治会など既存組織との連携	<ul style="list-style-type: none"> ① 各地域では当事者たる保護者が取り組みの主体であることを認識し、そのきっかけや環境作りに配慮する。 ② 保護者、子どものニーズや解決のアイデア、自主的行動を大事にする。 ③ 町内会など地域組織・関係既存組織と保護者との意思疎通を図り、先進的な事例や取り組みのノウハウなどを参考にしつつ、地域の実態・ニーズに合った方法を検討する。 ④ 行政・学校は、地域の実態・ニーズを把握して支援・協働する。 ⑤ 元気なシニア世代(団塊の世代など)の活用。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ① 腕章、ベスト、立て看板等の製作 ② 各地域で必要とする経費見積書を徴取したらどうか。 ③ 区ではその経費を予備費として計上はできないか。 	① 具体的にどう取り組むのか、どう伝えるのか、誰がやるのか、協力を求める方法は？